

- 著者は「理論株価を大きく上回るのがバブル」と定義します。「グラフ6」から、理論株価と日経平均株価の動きを、金融・財政政策との関連で見てください。「グラフ6」参照。理論株価は、企業の経常収益を基本に、著者が試算。
- ✓ 1960年～1985年は理論株価と日経平均はほぼ一致していましたが、1985年頃から1989年末までのバブル期の日経平均は、ピーク時は、理論株価の2倍を上回ります。株価バブルの要因は、法の抜け穴をついた財テク金融商品の横行でした。
- ✓ 1990年からは日銀のバブル潰しの金融引き締めが継続され、日経平均株価は過小評価され、ピークの2010年（民主党政権）には、理論株価の▼60%まで下げました。
- ✓ 2012年第二次安倍政権がスタートし、アベノミクス（金融緩和、積極財政）により、過小評価が徐々に解消され、2020年には過小評価を解消します。2024年7月の4万2222円は、理論価格から説明できるので、バブルではないと著者は言います。
- 日経平均過小評価は、過大な社会的割引率4%による公共投資減少が、デフレを増幅させたことも一因です。〔図1〕参照。

